

六ッ美地区の文化財

[引用資料・岡崎市教育委員会文化財関係資料 他]

[い、ろ、は]の記号は展示資料記号に準じる



[い] 浄珠院

[ろ] 犬頭神社

[は] 来迎院

[に] 観音寺

[ほ] 崇福寺

[へ] 竜泉寺

文化財の一覧表

	種目	町名	所在	対象物		種目	町名	所在	対象物
1	建造物	上青野	本光寺	本光寺本堂・山門	8	彫刻	土井	誓法寺	木造来迎阿弥陀如来立像
2	建造物	宮地	糟目 犬頭神社	石鳥居	9	工芸	下三ツ木	観音寺	熊毛兜
	彫刻			石造り狛犬・唐猫	10	無形文化財	中島	悠紀の里 斎田広場	大嘗祭 悠紀斎田お田植え祭り
3	絵画	上和田	浄珠院	絹本着色法然上人絵伝	11	無形文化財	岡崎12町 西尾4町		堤通り手永お田扇祭り
4	絵画	合歡木	正願寺	絹本着色善導大師像	12	無形文化財	岡崎12町 幸田1町		山方手永お田扇祭り
5	絵画	中島	崇福寺	絹本着色当麻曼荼羅 絹本着色十王像	13	天然記念物	中島	浄光寺	イチョウ・ハマボウ
6	絵画	中島	竜泉寺	絹本着色八相涅槃図	14	無形文化財	中之郷	中之郷神社	チャラボコ太鼓
7	彫刻	上青野	来迎院	木造来迎阿弥陀如来立像	15			(六ッ美地区)	六ッ美の名木

1.本光寺 (上青野町)

建造物

本堂・山門

国有形文化財
平成19年10月2日指定

【本堂】

境内中央の後方に向かって建てられています。入母屋造、棧瓦葺で、三間向拝を正面に付けた典型的な浄土真宗の造りとなっています。三方に広縁と落縁を廻し、内陣は後門形式で、内陣まわりを黒漆地に金箔張の彫刻や絵様が施されており、近代らしい装飾意匠がみられます。

本光寺本堂
大正2年再建



【山門】

本堂の東、道路に面して建てられています。入母屋造棧瓦葺、3間1戸の楼門です。下層の側まわりは解放とし、上層は正面・背後中央に棧唐戸を建て、他は格子をはめた板壁となっています。内部に釈迦如来など三尊を安置しています。標準的な楼門で、手堅い意匠でまとめられています。

本光寺山門
文政10年再建



2. 糟目犬頭神社 (宮地町)

糟目犬頭神社の糟目とは
ここ宮地町は明治39年ま
では糟目村大字宮地でし
た

建造物

彫刻

石鳥居・石造り狛犬

岡崎市指定文化財
昭和42年 9月14日指定

- ・ 岡崎市指定文化財・・・昭和42年指定
- ・ 石鳥居・・・[安土桃山時代 1605年]
- ☆明神系の鳥居、岡崎地方の最古の石鳥居で、越前産の石を加工、越前鳥居の最古の形式を示すものとして価値がある
- ☆岡崎城主本多豊後守康令が奉納
- ☆高さ320 c m、柱間255 c m明神系の鳥居



石鳥居

- ・ 石造狛犬・・・[江戸時代 1610年]
- ☆越前産の石を加工、本殿の前におかれてい
- るが高い塀に囲まれている
- ☆岡崎城主本多豊後守康令が奉納
- ・ 石造唐猫・・・[江戸時代 1605年]
- ☆越前産の石を加工、高さ20 c mの小サイズ、



慶長年間の狛犬

唐猫

3.浄珠院 (上和田町)

けんぼんちゃくしよくほうねんしょうにんえでん
絹本著色法然上人絵伝

絵画

岡崎市指定文化財
昭和47年7月5日指定

- ・ 岡崎市指定文化財 昭和47年7月5日指定
(岡崎市美術博物館寄託)
- ・ 作品 鎌倉時代
- ・ 法然上人の伝記を説いた絵伝 6幅
- ・ 全体を七十七の事跡で構成
- ・ 蛇行状に綿密な模写で物語を展開
- ・ 一幅の大きさは、縦164cm 横83cm



絹本著色法然上人絵伝
6幅

4.正願寺 (合歓木町)

けんぼんちゃくしよくぜんどうたいしぞう
絹本著色善導大師像

絵画

岡崎市指定文化財
昭和47年7月5日指定

- ・ 中国唐代の僧善導大師(613-681)の合掌した立像で、法然上人が夢で対面して感得した姿という。法蔵寺にも近似の絵像がある。
- ・ 右上方の短冊形が切断されていることから考えて、以前は最も大幅であったもので、後の修理の際に現形になったものと思われる。
- ・ 縦 54.5 c m 横 25.5 c m
室町時代、 14世紀の作



絹本著色善導大師像

5.崇福寺 (中島町)

けんぽんちゃくしょくたいまぼんだら ・けんぽんちゃくしょくじゅうおうず
絹本著色当麻曼荼羅 ・ 絹本著色十王図

岡崎市指定文化財
昭和62年7月15日指定

絵画

絹本著色当麻曼荼羅

- ・ 原本を正確に模写したもので、文亀三年（1503年）開眼供養、当麻寺の本尊として祀られている亡者は初七日から始まる各忌日に次々と冥界で裁判を受け、罪に応じた地獄の責め苦を受ける

絹本著色十王図

- ・ 冥途で亡者の罪を裁く十人の王を一人ずつ描いている
- ・ 亡者は初七日から始まる各忌日に次々と冥界で裁判を受け、罪に応じた地獄の責め苦を受ける
- ・ 下の絵は、57日の閻魔王の裁きの絵

・ 図の写し



絹本著色当麻曼荼羅



絹本著色十王図

6. 竜泉寺 (中島町)

けんぽんちゃくしよくはっそうねはんず
絹本著色八相涅槃図

絵画

岡崎市指定文化財
昭和62年7月15日指定

- 岡崎市指定文化財・・・
昭和62年指定
- 作成 江戸時代 (1821年)
- 中央に涅槃図、そのまわりに釈迦の生涯を描いた八相の22図が描かれている
- 色鮮やかな大幅の涅槃図 1幅
(縦 172.7 cm 横 141.3 cm)



左の涅槃図の中央部を拡大

絹本著色八相涅槃図

7. 来迎院 (上青野町)

もくぞうらいこう あ み だ によらいりつぞう
木造来迎阿弥陀如来立像

彫刻

岡崎市指定文化財
昭和47年7月5日指定

- ・ 作成 平安後期 (藤原時代) 1 軀
- ・ 大きな仏頂、彫眼、丸い肩、流れるような衣紋線が特徴
- ・ 江戸時代に全面におかれた金箔等によりやや彫りが鈍く見える。また部分的な彫り直しも行われたようである
- ・ 像高 66cm



木造来迎阿弥陀如来立像図

8. 誓法寺 (土井町)

もくぞうらいこう あ み だ によらいつぞう
木造来迎阿弥陀如来立像

彫刻

岡崎市指定文化財
昭和47年7月5日指定

- ・ 作成 室町時代後期 1躯
- ・ 室町時代に蓮如上人が三河に下った折に本山より贈られたもの
- ・ 像高 74.2 c m



木造来迎阿弥陀如来立像

9. 観音寺 (下三ツ木町)

くまげかぶと
熊毛兜

工芸

岡崎市指定文化財
昭和47年7月5日指定

- ・ 作成 安土桃山時代
- ・ 鉢は鉄鉢で裏面に布を貼り、黒色の毛皮を全面に貼ってある
- ・ 1548年戦死した三ツ木城主、松平信孝が愛用した兜と伝わる
(信孝は、清康(家康の祖父)の弟)
- ・ 1559年に、岡崎城主より兜を受領、最終的に観音寺で保存



熊毛兜

10.お田植え祭り (中島町)

無形民俗文化財

悠紀齋田お田植え祭り

岡崎市指定文化財
昭和41年3月10日指定

- ★天皇の即位の礼の後に行われる大嘗祭において、儀式に用いる新米を収穫するための田を齋田(さいでん)という。齋田は東日本から1か所、西日本から1か所選ばれる。この2か所は京都(大嘗祭を行う場所)を境に東日本の齋田を悠紀齋田(ゆきさいでん)と呼び、西日本の齋田を主基齋田(すきさいでん)と呼ぶ
- ★亀卜(きぼく)という占いで齋田の地方を選ぶその結果、悠紀は愛知県で主基は香川県と決まった
(亀卜とはウミガメの甲羅を炙りひび割れた状態で齋田の地方を選ぶ)
- ★愛知県では候補地を募集し厳選の結果、下中島の早川定之助氏の田が悠紀齋田となった
- ★T4/6/5田植え、T4/9/15稲刈り、そして京都御所へ供納米をT4/10/16無事に収めた
- ★悠紀齋田保存会及び有志の方々によりお田植え祭りが脈々と引き継がれて「お田植え唄」「田植え踊り」及び装束一式、用具等が保存伝承されている
- ★主基齋田保存会とは80周年記念を機に交流提携協定書が結ばれ、以後相互交流が行われている
- ★平成27年に100周年記念のお田植え祭りが秋篠宮同妃両殿下をお招きして盛大に実施されました
- ★現在お田植え祭りは毎年6月第1日曜日に午後2時より開催されている



11.お田扇祭り (岡崎市・西尾市)

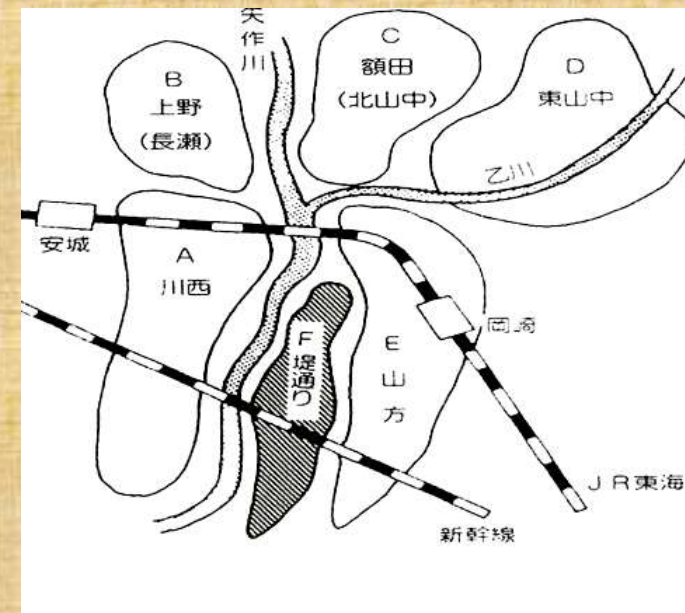
無形民俗文化財

堤通り手永お田扇祭り

岡崎市西尾市指定文化財
平成27年6月30日指定

江戸時代より岡崎藩に伝わる「御田扇祭り」は「皇大神宮御田扇祭り」といいます。土地の人々は親しみを込めて「扇さん」と呼んできました。各手永の大庄屋を中心に行われてきました。なおこの渡御行列を継承するのは、六ッ美地区の堤通り手永と山方手永のみです。

伊勢神宮から拝受してきた御鋤と御田扇を神輿に入れ、田植えが終わると幟を立てて村々を巡行しました。稲を害虫や疫病、風水害から守り豊作を祈願したわけです。御鋤と御田扇は、いつの間にか皇大神宮のお札に変わりました。(皇大神宮とは伊勢神宮のこと)



巡行町名 中之郷大庄屋：長嶋家
 中之郷→上青野→高橋→上合飲木→下合飲木
 →(高落・新村・西浅井・東浅井)→安藤→福桶
 →下三ツ木→上三ツ木→下青野→在家→土井
 →牧御堂→法性寺→宮地→赤渋
 (カッコ内は西尾市)

12.お田扇祭り (岡崎市・幸田町)

無形民俗文化財

山方手永お田扇祭り

岡崎市幸田町指定文化財
平成27年6月30日指定

★御田扇祭りは正式には、「皇大神宮御田扇祭」といい、江戸時代、岡崎藩の農民支配制度である手永制度のもと藩領である手永内で行われた祭礼です。史料によれば宝暦6（1756）年にはその存在が認められます。明和6（1769）年以降の後本多家藩主時代には6つの手永ごとに行われていましたが、現在、渡御行列を継承するのは、堤通手永と山方手永のみです。

★渡御行列は神輿を中心に、大団扇、花傘等の造り物で構成されます。1年毎に手永内のマチからマチへと巡行し、五穀豊穡・町内安全・天下和順などを願います。

★後に本多家時代の順村を基本とし、手永内13箇所で行われていました。巡行は1年に1箇所隣のマチへ移動ではなく、隣マチを一つ飛ばして巡行し、隣マチでは休憩所とし



巡行町名 六名町大庄屋：齋藤家
井内→下和田→国正→正名→
(永野)→定国→中村→坂左右
→野畑→若松→針崎→柱→
羽根 (カッコ内は幸田町)

13. 浄光寺 (中島町)

天然記念物

イチョウ・ハマボウ

岡崎市天然記念物
昭和60年3月6日指定

浄光寺のイチョウ

樹高18.3mに達するイチョウの巨樹である。

上部が台風のために伐採されてしまっている

が、樹勢は極めて良好であり、病虫害

虫

ない



浄光寺のイチョウ

浄光寺のハマボウ

愛知県の植物研究の先駆者である西尾市貝吹町の故名倉潤一郎氏が、昭和5年春に渥美半島から幼苗を取り寄せて植えられたものである。

寒さに弱く、一般にこの地方では移植栽培が困難なこの植物が樹高6.0mになり得たのは極めて珍しい。



浄光寺のハマボウ

14. チャラボコ太鼓 (中之郷町)

(中之郷神社)

無形文化財

* 祭礼時に太鼓・笛などの楽器で囃し、簡単な屋形と共に村内を練り歩く祭

囃子は、矢作川沿岸に伝承されてきた郷土芸能。この祭囃子で使っている太鼓を「チャラボコ太鼓」と呼ぶ。名前は太鼓のリズム（チャンチャン、チャラボコと聞こえる）から来ている。

* 真鍮製の金胴からなる小メ(コジメ)太鼓と木製のコンコロ太鼓がある。

極

限まで皮を強く張り、この太

と

経験

町

の三



太鼓



ため、独自の技術

みうち1軒は本宿

チャラボコ太鼓の巡行

15. 六ッ美の名木

19 土井楠				
所在地	中之郷町字寺畔10			
樹種名	クスノキ			
樹高	21.5m	幹回り	3.3m	
根回り	4.4m	枝張り	22.2m	
<p>浄妙寺本堂の南側に位置する。慶長10年、徳川家光時代の老土井利勝の母の墓木として植えられたと伝えられており、樹齢400年以上と推定される。、樹冠は広く墓地を覆い、バランスのとれた樹姿である。</p>				
				

23 神明社のやまもも				
所在地	高橋町字屋敷3			
樹種名	ヤマモモ			
樹高	5.3m	幹回り	3.1m	
根回り	3.8m	枝張り	4.4m	
<p>本殿の左奥に位置する。樹齢200年と推定され、建立時に植えられたもので、この種では市内最大級の大樹であったが、神社改修に伴い、平成18年に現在地に移植された。</p>				
				

26 浄珠院のたらよう				
所在地	上和田町字北屋敷55			
樹種名	タラヨウ			
樹高	5.4m	幹回り	1.6m	
根回り	2.7m	枝張り	4.2m	
<p>本堂の前方に位置する。当院再建の折に植えられた。光沢のある厚く大きい楕円形の葉によって本種独特の樹勢をなす老木であるが、近年、樹勢の衰えが著しい。</p>				
				

21 犬尾神社の大けやき				
所在地	下和田町字北浦16			
樹種名	ケヤキ			
樹高	18.0m	幹回り	2.7m	
根回り	4.5m	枝張り	18.0m	
<p>拝殿に向かう参道の右手に位置する。下和田城跡に残る大木で、四方と上方に長く枝を伸ばし、均整のとれた広い樹冠はケヤキ特有の美しい樹姿である。</p>				
				

24 崇福寺のひば				
所在地	中島町字道海1			
樹種名	カマクラヒバ			
樹高	8.0m	幹回り	1.5m	
根回り	1.9m	枝張り	5.0m	
<p>本堂の東側で周囲を庫裡に続く建物で囲まれた中庭の北側に位置する。樹齢は不明であるが、かなりの年数を経た古木である。庭の景観樹として仕立てられ、ヒバの特性を活かした均整のとれた樹姿である。</p>				
				

27 浄珠院のいちよう				
所在地	上和田町字北屋敷55			
樹種名	イチヨウ			
樹高	20.2m	幹回り	3.3m	
根回り	4.8m	枝張り	16.5m	
<p>本堂の前庭に位置する。樹齢300年と推定され、当院再建の折に植えられ、境内を同年代の雌、雄のイチヨウで覆っており、イチヨウ寺の感がある。バランスのとれた健全な樹形である。</p>				
				

22 慈光寺の銀杏				
所在地	下青野町字柳原10			
樹種名	イチヨウ			
樹高	12.0m	幹回り	3.0m	
根回り	4.0m	枝張り	11.4m	
<p>本堂に向かって右手前に位置する。樹齢200年と推定され、山門横にある独立樹で、風のため幹が途中で折れており、枝は変則的に長く伸びている。幹には深い縦溝があり独特の樹姿をしている。</p>				
				

25 八幡社の招霊木				
所在地	中島町字上町55			
樹種名	オガタマノキ			
樹高	10.0m	幹回り	2.3m	
根回り	5.4m	枝張り	13.5m	
<p>拝殿に向かって右手に位置する。樹齢100年以上と推定され、悠紀齊田奉耕10周年を記念して植えられた。樹冠が広く幹の立上りが端正である。神社によく植えられる木だが、この地方では余り見られない。</p>				
				

招霊木(オガタマノキ)
T4 80周年 100周年で記念植樹

107 住吉社の大やまもも				
所在地	中島町字住吉西10			
樹種名	ヤマモモ			
樹高	6.1m	幹回り	2.2m	
根回り	3.2m	枝張り	6.8m	
<p>住吉社の拝殿西側に位置する。神社の御神木とされている。樹齢は不明であるが、70年ほど前でも、小学生一人では抱えきれない太さであり、この地区で一番古い木といわれている。樹高約1.3mの位置で二股にわかれており、南側の幹が傾斜して伸びている。幹に腐朽や空洞はあるが、樹勢は良好である。</p>				
				